

【テーマ】

国際経済学研究－日本を取り巻く国際経済の諸問題を分析する－

【演習内容】

（１） 演習目的

本演習では、現実の国際経済で発生している諸問題を具体的に取り上げ、**国際経済学**の基礎的な理論を用いればそれらをどのように分析できるのか、を皆さんと一緒に考えていきます。

私たちは日々、新聞やテレビ、インターネットなどを通じて、国際経済に関するニュースに接しています。大きな出来事としては、「リーマン・ショック」（2008年9月）や「ドバイ・ショック」（2009年11月）、「ギリシャの財政問題」（2010年5月）が皆さんの記憶に残っているのではないのでしょうか。さらに最近（2010年9月時点）の出来事で日本に関連するものとしては、「急激な円高・ドル安の進行に対する外国為替市場への日本単独の介入」や、「日本とインドの間での経済連携協定（EPA：Economic Partnership Agreement）の大筋での合意」などが挙げられると思います。

上に記した国際経済情勢の変化は全体のごく一部にすぎませんが、これらはさまざまなチャネルを通じて世界各国の経済に波及し、場合によっては大きなマイナスの効果を与えます。このような国際経済における諸問題の背景や原因を理解・分析し、問題解決の方法のヒントを与えてくれるのが応用経済学の1つである**国際経済学**です。

国際経済学は通常、外国との財・サービスの取引（実物取引）を扱っている**国際貿易論**と、外国との金融取引（貨幣取引）を扱っている**国際金融論（国際マクロ経済学）**の2つに大別されます。しかし、本演習では「国際経済」をもう少し広く解釈して、発展途上国の貧困・環境・食糧問題などを考える**開発経済（学）**や、中国やインド、あるいはEUや南米といった特定の国や地域を対象とした**地域経済（圏）**までも視野に入れて研究していきます。

受講生の皆さんには、以下の2つのことを意識しながら、演習に参加してもらいたいと考えています。

〈１〉 世界の中の日本（日本経済との関連性）

言うまでもなく、今後の日本経済を支えていくのは現在、大学生である皆さんです。日本経済と国際経済の今後の繋がりを長期的な視点に立って考え、活発に議論して下さい。

〈２〉 理論（抽象）と現実（具体）のバランス

本演習では、国際経済に関する情報や統計資料を新聞、雑誌、書籍、インターネットなどのメディアを通じて収集し、整理する方法も学びます。しかし、それら「のみ」にもとづく議論は表面的なものに陥りかねません。国際経済学で培われてきた知見（理論）にもとづくアカデミックな議論ができるように心がけましょう。

（２） 演習方法

2年次の演習では、毎回、2つの作業を行います。1つは基本書（教科書）を輪読し、**国際経済学の理論的な基礎固め**を行います。本文はもちろんのこと、章末の練習問題などにもチャレンジし、応用力を養っていきます。もう1つは**国際経済に関する新聞記事**を丁寧に読み込み、現実の国際経済の動きへの理解も深めていきます。これらの作業を1年間繰り返して行えば、皆さんの中でオリジナルな問題意識や関心が醸成されていくと考えています。

3年次では、2年次で習得した理論と蓄積された国際経済の情報をもとに、さらに研究を進めていきます。**自ら課題を設定**した上で、その問題解決の方法を理論的・実証的に考察する作業を行います。その後、中間報告と最終報告を経て**小論文**を作成し、4年次の**卒業研究（卒業論文）**に発展させていきます。

いずれの作業も、「個人単位」で行うか、「グループ単位」で行うかは受講人数によって判断します。また、必要に応じて、統計学や計量経済学、パソコンの操作について学ぶ補習（サブゼミ）も行います。

（３） 年間スケジュール

2011 年度前期：国際経済理論の習得（Ⅰ）、国際経済に関する新聞記事の読み込み（問題の発見）

2011 年度後期：国際経済理論の習得（Ⅱ）、国際経済に関する新聞記事の読み込み（問題の整理）

2012 年度前期：研究（Ⅰ）：先行研究の整理・要約、理論的な考察、統計資料の収集・整理・分析・考察

2012 年度後期：研究（Ⅱ）：研究の中間報告・最終報告、小論文の完成

その他、随時、懇親会や合宿などの各種イベントも行う予定です（基本的には受講生全員に参加してもらいます）。

（４） 関連科目

国際経済学は応用経済学の１つであるため、その基礎となる**マクロ経済学**と**ミクロ経済学**は特に重要です。しっかり勉強しておきましょう。

1 年次：専門教育科目の必修科目すべて

2 年次：マクロ経済学Ⅰ、ミクロ経済学Ⅰ、国際経済 A・B

3 年次以降：国際経済システム論 A・B

（５） 参考書

以下の書籍の内容はいずれも本演習での研究テーマとほぼ同じですので、図書館や書店などで参照して下さい。現時点（2010 年 9 月時点）で、基本書（教科書）は未定です。

- ・竹森俊平（1999）『世界経済の謎－経済学のおもしろさを学ぶ－』東洋経済新報社
- ・リチャード・E・ケイブズ、ジェフリー・A・フランケル、ロナルド・W・ジョーンズ（著）伊藤隆敏（監訳）田中勇人（訳）（2003）『国際経済学入門Ⅰ：国際貿易編』日本経済新聞出版社
- ・リチャード・E・ケイブズ、ジェフリー・A・フランケル、ロナルド・W・ジョーンズ（著）伊藤隆敏（監訳）田中勇人（訳）（2003）『国際経済学入門Ⅱ：国際マクロ経済学編』日本経済新聞出版社
- ・澤田康幸（2003）『基礎コース国際経済学』新世社
- ・大川昌幸（2007）『コア・テキスト国際経済学』新世社
- ・Krugman, P. R. and Obstfeld, M.(2008). *International Economics: Theory and Policy*, 8th edition, Addison Wesley.
- ・東京経済大学国際経済グループ（2009）『私たちの国際経済－見つけよう、考えよう、世界のこ－』有斐閣ブックス
- ・内閣府『世界経済の潮流』（各号）

（６） その他

- ① 演習は皆さんが**主体的な学習**をすることによってはじめて、実り多いものとなります。受け身の姿勢ではなく、自ら考え、積極的に行動するようにして下さい。
- ② 社会人として、**最低限のルールやマナー**は守りましょう。特に、正当な理由のない遅刻や無断欠席などが続いた場合、学期の途中でも演習への参加を認めない場合があります。
- ③ **本演習が求める学生像**は以下の通りです。１つでも該当していれば、大いに歓迎します。
 - 〈A〉「予習→演習→復習」のサイクルを最後まできちんと守ることができる人
 - 〈B〉何事にもチャレンジする意欲を持っている（困難や失敗に直面してもすぐに投げ出さず、粘り強くコツコツ努力し続けることができる）人
 - 〈C〉他者を尊重して積極的にコミュニケーションを図りながら、円滑な人間関係を構築できる人

【選考方法】

書類審査のみ（「入室志望書」の該当欄には**自己アピール**を書いて下さい）